



令和5年7月20日
大津市立瀬田南幼稚園
園長 平木 秀樹

早いもので、1学期も今日で終わり、明日から42日間の夏休みとなります。この1学期間で、3歳児さくら組の子ども達もずいぶん自分らしさを発揮できるようになってきましたし、4歳児ぱんだ組は、友達との関わりが広がってきたように感じます。5歳児そら組は、自分でいろいろなことを考えながら主体的に動こうとするようになってきました。子ども達一人ひとりの心と体の成長を感じ、うれしく思っています。

夏休みは、少しゆったりと幼稚園とは違った経験ができる機会でもあります。特別なイベントである必要はありません。日々の親子での心に残る共有体験を大切にいただき、子ども達の夏休みの思い出が、優しさで温かさに満ちたものとなることを期待しています。



「おいしいね！」に共感し合って

7月11日は、5歳児そら組の子ども達が収穫したジャガイモと玉ねぎを使って、カレーを作ってもらいました。当初は、そら組と保育園のぶどう組とが一緒に調理をする予定だったのですが、園内で体調不良の子どもが増えてきた時期と重なってしまったため、残念ながら子ども達はジャガイモ洗いと玉ねぎの皮むきだけの参加となりました。

調理員さんが作ってくださったカレーにはカボチャも入っていて、とても甘くて極上のおいしさでした！ いずれの学年の子ども達も「おいしい〜」「甘〜い！」と大満足！カレーが苦手で心配していた子どもも、おいしそうにカレーをほおばる友達の笑顔につられたのでしょうか、恐る恐る口に入れてみて・・・「おいしい！」と嬉しいカレー初体験となりました。

ある説によると、人間の五感で最も確かな感覚は、味覚なのだそうです。確かに赤ちゃんが何でも口に入れたがるのは、より確かな感覚で「それは何か」を確かめようとしているからなのでしょうね。そのような意味でも、友達と同じものを食べるということは、「おいしいね！」ということを経験としっかりと共感し合うとても大切な経験になるということです。

前回の『みなみかぜ』にも、友達と「つながっている」という実感が自尊感情の育ちにつながるということを書きました。今回、クラスの友達と一緒にカレーを食べておいしさに共感し合った経験は、『味覚』という確かな感覚を通して友達とのつながりを実感する機会になったことと思います。

ご家庭においても、親子で食事をしながら「おいしいね」「これは甘いね」「ちょっと酸っぱい」など味覚を通して共感し合うひとときをつくってください。そのような経験を積み重ねていくことで、お父さんやお母さんと「つながっている」＝「愛されている」という実感を抱くことにつながっていくことと思います。



そら組「ジャガイモをきれいに洗おう！」



さくら組「幼稚園のカレー、おいしいね」



ぱんだ組「来年は、僕たち、私たちで！」



そら組「自分で育てたジャガイモと玉ねぎのおいしさは格別だね！」

心と頭をいっぱい働かせて！

4歳児ぱんだ組では、これまで草花をつぶして色水づくりをしていましたが、よりはっきりとした色の变化などにも気づいてほしいという思いから、絵の具で色を付けた色水を3色用意し、子ども達がそれを混ぜ合わせたりして遊べるように遊びの場を準備しています。



「次はジュースをつくろうかな～」



「泡を入れたら・・・ビールみたい！」

ペットボトルやカップ、たまごパックなどの容器を用意すると、その容器に色水を入れてジュースに見立てたり、色を混ぜて色の变化を楽しんだりする姿が見られます。隣でしている泡遊びの泡を容器に入れて「ビール！」と嬉しそうに見せてくれる子どももいました。

その中で、Aちゃんは、たまごパックに赤い水を入れ、次に青い水を入れていきました。たまごパックは底が10分割されているので、青い水を入れても一気に色が混ざらず赤・紫・青のグラデーションになりました。Aちゃんは、少しずつ青い水を入れて、少しずつ色が変化していくのを確かめているようでした。そして、「次は黄色入れよ」と黄色い水を入れ、青い部分が緑に変わると「緑になった…」と驚いていました。



「青い水を入れたら色が少しずつ変わってきたよ」

色水遊びという同じ場で遊んでいる子どもたちですが、ペットボトルを使ってジュースなどの『見立て遊び』を楽しんでいる子どももいれば、Aちゃんのようにたまごパックがあることで色の微妙な変化に気づいて自分なりに試している子どももいて、心と頭をいっぱい働かせながら遊んでいることがわかりました。そのような姿から、それぞれの遊びを十分に楽しめる遊びの環境の大切さを改めて感じました。



「ぱんだ組さんからもらったよ～」

そんなぱんだ組さんの色水遊びに興味津々の3歳児さくら組のBちゃんとCちゃんは、カップに入ったピンク色の色水をもらってきて、あたかも自分が作ったかのように

Bちゃん：「ピンクのジュース！」

Cちゃん：「Bちゃんとおんなじピンク！」

Bちゃん：「赤いのがピンクになってん！」（もらった色水を水道水で薄めてみたようです。）

と自慢げに教えに来てくれました。さくら組の子ども達にとっては、ぱんだ組のお兄さん・お姉さんの姿を間近に見られることで、新しい気づきを得たり、ぱんだ組さんへの憧れの気持ちが高まったりすることにつながっているのだろうと思います。このような経験が、幼稚園の『遊びの文化』として次の学年に受け継がれていくのだと考えています。



自分の大切な色水を見せ合いっこ

1学期間、至らない面も多々あったことと存じますが、ご理解とご協力をいただき、ありがとうございました。楽しい夏休みをお過ごしください！

